



第2回まつしろ現代演劇プロジェクト

「班女・卒塔婆小町」

作/三島 由紀夫 構成・演出/関 美能留

『班女』『卒塔婆小町』は、能楽に取材した三島由紀夫の一幕戯曲全8編から成る『近代能楽集』に収められている作品です。三条会版では、この2編を連続して上演するという構成をとることで三島由紀夫の世界観を浮き彫りにしながら、戯曲の言葉を現代の俳優の身体とともに明快に生き生きと舞台上に出現させていきます。

【三条会】

現代演劇の可能性を探求し、実践する集団として、演出家・関美能留を中心に千葉大学演劇部出身の俳優たちとともに千葉市を拠点とする演劇集団「三条会」を1997年に結成、活動を開始する。

三条会の作品は、三島由紀夫や武田泰淳、安部公房などの近代戯曲や文学をテキストとして作られている。戯曲の物語世界、作者の作家性を探りつつ、それを相対化することで、人間存在の普遍的な問題をユーモラスに富んだ表現で、現代演劇として舞台化している。三島由紀夫『熱帯樹』を皮切りに、古今東西の戯曲の上演を続けている。

2001年、舞台芸術財団演劇人会議主催の利賀演劇コンクール2001で、主宰の関美能留が武田泰淳の『ひかりごけ』で、最優秀演出家賞を受賞。以来、拠点である千葉市での公演に加えて、活動の幅を広げ、神奈川・静岡・東京・栃木・鳥取・富山・長野など国内各地で演劇フェスティバルや演劇プロジェクトに参加。また海外の国際演劇祭(中国・韓国・台湾)での招待公演など活動の場を広げている。言葉・身体・時間・空間といった演劇の諸要素と観客に対峙する中から生まれる力強く、ユーモアのある楽しい舞台には定評がある。

【主な公演作品】

代表作に武田泰淳『ひかりごけ』、安部公房『砂の女』、ワイルド『幸福の王子・サロメ』、エウリピテス『メティア』、寺山修司『レミング』 他

関美能留(演出家/三条会主宰)

1972年生まれ。千葉大学園芸学部中退。1997年、千葉大学演劇部出身の俳優とともに三条会を結成、以後すべての作品の構成・演出を手がける。主な演出作品は、武田泰淳『ひかりごけ』、エウリピテス『メティア』、平田オリザ『S高原から』など。2001年、第2回利賀演劇コンクール最優秀演出家賞、2005年、第3回千葉市芸術文化新人賞を受賞。2006年度千葉大学文学部非常勤講師、千葉市民文化大学講師 他

■交通のご案内

シャトルバスをご利用ください。

長野駅東口⇄松代

料金：大人往復1,000円(片道600円)

※長野駅東口 2番乗り場をご利用ください。

※乗車券の販売は長野駅東口・料の木



三条会

〒260-0012 千葉市中央区本町1-4-2 サガビル3F

TEL/FAX 043-224-3901

E-mail 777@sanjoukai.com <http://www.sanjoukai.com>